大阪 歯科 保険医新聞

2/5
2008年第967号
（毎月5、15、25日発行）

大阪府歯科保険医協会
発行人　志岐　敬
大阪市浪速区幸町1-2-33
電話(06)6568-7731(代表)
http://osk-net.org/
●定価・年間10,000円　月1,000円
●1977年5月23日第三種郵便物認可

中医協歯科改定骨子固まる

協会・歯科界のねがい一部反映

7～14面 中医協案

1月30日に開かれた中医協総会に主要改定項目案が提出された。初案どおり、P管理、口衛指は廃止され、「歯科疾患管理料」が新設される。

初・再診料はラバーや歯肉即肉除去術との包括で引き上げられる。

文書提供の頻度は3カ月に一回程度を基本に見直される。

歯周治療はSPTの導入のほか、再SRPや歯周外科の1歯単位評価の復活と引き換えに引き下げるとしている。新規技術では、歯周組織再生誘導法など先進医療から3項目が導入され、一般診療所でも取り扱えるよう当初案から修正している。

財源は本体0・42%。主要項目以外の通知が出揃わないと全容は評価できないが、協会・歯科界がかねてから指摘してきた不合理部分の一部修正・是正が散見される（7～14面に中医協案）。

協会は、1月18日の中医協「現時点の骨子」に対してパブリックコメントおよび小澤力政策部長談話を発表し、厚労省やマスコミ各社に届けた。これをうけ、小澤部長談話が「日本歯科新聞」1月29日付に報道された。

保団連 第41回大会

社会保障充実などの方針

新副会長に山上氏 新理事に矢部氏

全国保険医団体連合会（保団連）の第41回大会が1月26・27日の両日、東京都内で開かれ、国民生活破壊の「構造改革・改憲」から、社会保障の充実と平和の中で国民生活再建へなどの08・09年度方針を決定した。

新役員には、会長に住江氏（再）、事務局長に中重治氏（新）が選出された。大阪歯科の山上紘志氏が副会長（新）、矢部あづさ氏が理事（新）に選出された。

冒頭、住江憲勇会長は「保団連の活動が広く知られるようになり国民や世論を動かしてきた。国民の社会保障を切り捨てる路線や小さな政府を許すことはできない」と挨拶した。

大会方針は、小泉・安倍「構造改革」により、医療の崩壊・貧困の拡大・教育の荒廃・自治体の疲弊など各分野で耐え難い困難が生じている、その根源にある「構造改革」路線を見直す運動が各分野で広がり、国民の要求が国政に反映し始めているとし、患者が安心して医療を受けることができ、保険医もゆとりの持てる医療制度にするため、医療費総枠拡大・患者負担軽減、後期高齢者医療制度撤回などを求める署名・国会要請・自治体要請などを、患者・国民と共同して進めることを提起している。

大会には大阪歯科から伊津進弘理事長、貴島正彦・小澤力各副理事長、矢部あづさ理事が代表として参加、「保険でよい歯科医療をもとめるとりくみ」（矢部代表）、「安心・安全な歯科医療を提供するための経営・税務活動」（貴島代表）、「大阪歯科協会の審査・指導対策のとりくみ」（小澤代表）、「魅力ある協会の研究会活動」（伊津代表）の発言で議案討議に参加した。

大会では、「第41回大会決議」と、「青森県六ヶ所村・核燃料再処理工場の本格稼働の中止を求める特別決議」が採択され、全国から代表139人ら331人が出席した。

保団連新役員として副会長に選出された山上紘志氏（上）と、理事に選出された矢部あづさ氏（下）

1月度生涯研

嚥下リハでの歯科の役割

栄養状態良くし全身を改善

患者さんを病院から追い出し在宅へという政策や、後期高齢者医療制度という過酷な保険制度の創設をひかえ、歯科には在宅歯科診療や摂食嚥下リハビリテーション（嚥下リハ）の要望が高まることが予想される。

口腔ケアの重要性を指摘する野原氏＝1月20日、M＆Dホール

協会の歯科臨床・学術学会部は、「食医のススメ 日常臨床に役立つ摂食嚥下障害の診断と治療」と題して生涯研修講座を1月20日、M＆Dホールで開いた。講師は野原幹司氏（大阪大学歯学部顎口腔機能治療部）で、歯科医師ら83人が参加した。

歯科医は歯科治療だけではなく、嚥下機能を含めた口腔機能の専門家として期待されている。高齢者は低栄養状態なことが多く、さまざまな病態の原因になっている。嚥下障害と歯科疾患が改善すれば、栄養状態が改善し全身状態も良くなる。

誤嚥性肺炎の予防として口腔ケアを行うが、口腔を刺激することでサブスタンスPとドーパミン濃度が上がり、咳反射・嚥下反射が亢進するという機序もある。嚥下の5期の内誤嚥は咽頭期に起こるが、その原因の多くは先行期・準備期・口腔期にある。そのため、嚥下リハは歯科ができることが多い。咽頭期が分からないので手を出してはいけないと歯科医は考えがちだがそうではない。

野原氏は、「摂食機能療法185点は歯科が作った項目であるが、歯科からの算定が少ない。歯科衛生士も行うことが可能であるのでしっかり算定して欲しい」としたうえで、「間接訓練には肩・首・口のマッサージ、口腔内のアイスマッサージ、呼吸訓練、咳訓練などがある。食べること全般を診る食医を、我われ歯科医は目指しましょう」と結ばれた。

（港区・冨本昌之）

おおさか医科・歯科九条の会

格差極まるとアメリカの二の舞に

結成2周年講演にご参加下さい

山上紘志（九条の会世話人、保団連非核・平和部部長）

九条の会結成2周年記念講演「格差が生み出す悲劇―知られざる米軍兵士の実態―」を3月2日（日）、M＆Dホールで開きます。講師はジャーナリストの堤未果氏です。

「ニューヨークの貿易センター（WTC）ビルが音を立てて崩れ落ちたとき、私のなかで理想であり憧れだった、アメリカという『夢』が砕け散った」堤さんは、あの2001年9月11日について、自著にそう記しておられます。

努力次第で自由と幸せな人生をつかめる「アメリカン・ドリーム」を信じて米国に留学し、その後金融業界に就職した3カ月目の出来事が、その後の長い心的外傷後ストレス障害（PTSD）を引き起こします。そのために03年に会社を辞め、日本に戻ります。9・11の体験やアメリカ社会の虚構を題材に出版し、要請があればどこにでも気安く講演をされています。堤さんが講演で必ず触れるのは、日本の平和憲法です。「武力で平和は勝ち取れない。九条こそ世界の未来につながる」と。

今回の講演は、進行しつつある日本の格差が極まるとまるでアメリカの二の舞となると、説得力と示唆に富んだ内容です。会員・ご家族、スタッフのご参加を熱い思いで訴えます。

イラク帰還兵に共通する講演の予告をしておきます。5月10日（土）に同じホールで、デニス・カイン氏の「真実を聞いてくれ―俺は劣化ウランを見てしまった―民主主義社会と軍隊の関係―」の開催が予定されています。この講演にも、多数のご来場を期待しています。

おおさか医科・歯科九条の会　結成2周年記念集会
記念講演「格差が生み出す悲劇―知られざる米軍兵士の実態―」

日時　3月2日（日）
記念集会　午後2時～2時30分
記念講演　午後2時30分～4時30分
会場　M＆Dホール（保険医会館東隣り）　**定員**　150人
講師　堤　未果氏（ジャーナリスト）　**会費**　無料
※記念集会に先立ち午前11時～午後12時40分に映画「ムッちゃんの詩」を上映します。

各種相談室

専門家がおこたえします

雇用相談
【日　時】2月14日（木）午後2時～4時
【相談者】堀口正二社労士

税務相談
【日　時】2月20日（水）午後2時～5時
【相談者】佐飛淳一税理士

法律相談
【日　時】3月3日（月）午後2時～4時
【相談者】河村武信弁護士

相談料は無料、会場は保険医会館1Fです。
事前予約制で、1週間前に締め切ります。

歯界

日本中の偉い人が知恵を絞って考えている課題がある。産婦人科、小児科医師の不足への対策である。結論は労働条件の改善、つまり過労と低収入を改めようというものであり、課題は予算処置に絞られた観がある。

地位の偉い人の知恵はこの程度の物らしい。医者を志す者は初めから過労と低収入は覚悟の上で、家族も承知で30歳くらいまでドクターを扶養している。

家族の犠牲で勉学と修行を積んでも多様な医療の選択肢の中で、100%の裁量権を持つ患者と保険ルールに縛られて無理な要求に泣かされるのが医者である。物分かりのいい稀な患者に細々と支えられて、糊口を癒すのが医者である。余裕と機会があれば、マスコミ業界なんかに転出するのがいても不思議でない。

使命感で過労と低収入に耐えているなんて青臭い本音を吐露したら、昼間に幽霊に出会ったような不思議な顔をされる。そんな言葉は、利益優先社会では死語に近い。